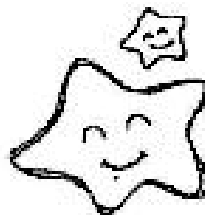


QSK にぬふあぶし

No.321

ね
子の方向の星(北極星)



追悼 比嘉秀次さん (沖福連2代目会長)

比嘉秀次さんは、1992年11月の沖縄県石川保健所管内家族会「結の会」の結成において中心的な役割を担い、会長に就任、地域の家族や当事者、困難を抱えた人々の相談に親身に接し、支援をしてこられました。

「結の会」として沖縄県精神障害者家族会連合会(沖家連)に加入してからは、県内の家族会同士の連携を強めるとともに、1994年10月に沖縄県から法人認可を受け、任意団体の沖家連を発展解消して、公益活動の社会的認知を広げることに尽力されました。

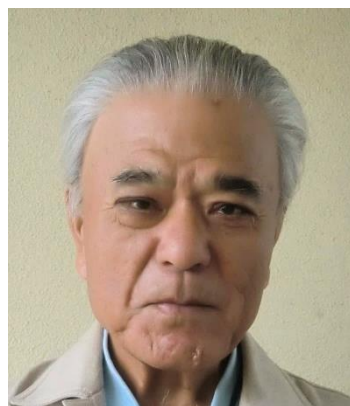
社団法人となった沖縄県精神保健福祉会では、初代・山里八重子会長を支える副会長に就任。2001年7月に山里会長が急逝された後は、会長職務代行者として、さまざまな重責を穏やかな笑顔で引き受け、2002年5月総会において、理事全員の推薦で二代目会長に就かれました。

比嘉秀次さんが会長職を務めた2002~07年の5年間は、障害者自立支援法で揺れた試行錯誤と前途多難の連続でしたが、持ち前のリーダーシップで、家族会活動および当事者の社会参加に心を砕かれました。てるしのワークセンター十周年記念事業「共劇・恩納ナビ〜障がい者と健常者が共に造るうちなー芝居〜」では、親類筋の平良とみさん、進さんが全面協力、プロもアマも、老若男女、前向きに心を一つにして、沖縄コンベンションセンター劇場棟2700席を埋め尽くしました。感激と感謝でもみくちゃんにされていた比嘉会長の破顔、脳裏に焼き付いています。

また2006年1月、石川保健所管内家族会のほうも、「NPO法人うるま市心の健康を守る結の会」となり、運営する「うるま市地域活動支援センターゆい」の支援員として活動しておられました。

去る10月8日午前7時50分、ご家族に看取られて天に召されました。葬儀は翌9日、ご家族と近親者によって執り行われました。

ご逝去を悼み、ご冥福をお祈りいたします。



2023年10月17日

記・高橋年男(沖福連、理事)

比嘉秀次さん逝く

比嘉秀次さんが亡くなったと、山田会長から連絡が来た。式の日程を問うが、家族葬でいきなり明日の朝9時から火葬だという。那覇からだとちょっとした距離だ。

翌日朝、那覇インターから車を走らせ、なんとか間に合った。

棺の中の比嘉さんはすごく穏やかな顔をしている。山田会長と私が生前の比嘉さんについて話をしていると突然、「あの比嘉さんですか？」と葬儀社の職員が聞いてきた。

そうなんだ。比嘉秀次といえば旧具志川市では数々の市民相談を受けてきた人だ。さまざまな困りごとに直面した市民からの相談に毎日毎日奮闘し、行政交渉や専門家の知恵を借りながら市民とともに歩んできた人だ。

私が比嘉さんに初めて会ったのは1976年だ。当時は全県的な選挙があると「革新共闘会議」というのが作られ、選挙の母体となっていた。比嘉さんはいつもここ(旧具志川市)の代表だった。私は比嘉さんの名前は聞いていたが、お会いするのはこの時が初めてだった。淡々と仕事をこなす比嘉さんを見て、忙しそうだなと思ひ、事務的な話をして別れた。

その後何回か同じことでお会いしたが、いつも事務的な話で終わり、記憶の中から消えかかっていた。久しぶりに会ったのが家族会のお母さんたちの輪の中にいる比嘉さんだった。10年以上のブランクがあったと思うが、あの物静かでのこにことした顔がそこにあった。棺の中の比嘉さんもやっぱり微笑んでいるように見える。安らかに。

島田正博

比嘉秀次さん、活動の足跡(略歴)

1958年	4月	コザ市青年連合会長
1960年	4月	沖縄県青年団協議会理事
1962年	5月	沖縄県祖国復帰協事務局長
1970年	4月	具志川市議会議員 (1970年~2002年/通算6期)
1988年	11月	沖家連結成(山里八重子会長)
1992年	11月	石川保健所管内精神家族会会長(2006年1月まで)
1994年	10月	沖福連法人認可、副会長(2002年5月まで)
2001年	7月	沖福連会長職務代行者(2002年5月まで)
2002年	5月	沖福連会長(2007年5月まで)/全家連評議員(同)
2006年	1月	NPOうるま市心の健康を守る結の会会長(2023年10月まで)



地域活動支援センターおきなわ

爽やかな秋晴れの中で野外活動

暑さもやわらぎ、野外での活動も秋の風情を感じる季節となりました。
当センターでは、この季節にドライブやスポーツ等の野外活動を多く実施しました。今後も健康増進や心身のリフレッシュに努め、ドライブ、ゆるスポ、BBQ など多彩な活動を企画します。皆様の参加をお待ちしています。

ドライブ



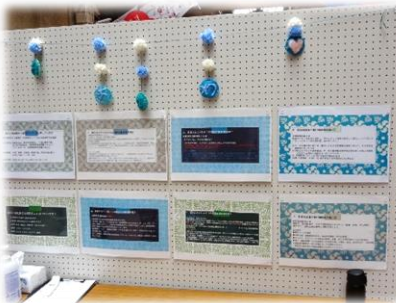
B型作業所見学



グランドゴルフ



沖縄市福祉まつりに出展しました。



10月15日(日)恒例の『沖縄市福祉まつり』が一番街で開催され、当センターもパネルで活動の様子を紹介しました。また、ディスゲッター(frisbee)のゲームに多くの親子連れが参加、挑戦し、子ども達の大きな歓声で賑わいました。

赤い羽根 空の第一便伝達式に参加してきました

10月1日(日)、那覇市のパレットくもじ前広場にて、沖縄県共同募金会による赤い羽根募金の伝達式があって、沖福連からもメンバーとスタッフとで参加してきました。



10月に入っても、まだまだ暑いなかでの式典でした。

「はえばるミニ物産フェア」がありました

9月16日(土)~10月15日(日)の1か月間、サンエー浦添西海岸・パルコシティ1Fの「沖縄宝島」店舗にて、「はえばるミニ物産フェア」が開催されました。

てるしのワークセンターからも、紅型雑貨や水引アクセサリなどを出品して、活動と商品をアピールする貴重な機会とさせていただきました。



期間中には南風原町のイメージキャラ「はえるん」や「かすりの女王」も応援にかけつけました!

ラップ 「WRAP 2days 集中クラス in 沖縄」のあとに

増山幸司 (ましー)

系満大綱引きが終わったばかりの秋の週末、『WRAP (元氣回復行動プラン)』の2日間集中クラスを、くくる系満に会場を借りて行なった。[※WRAPは、毎日を健やかで心豊かに暮らすことを促してくれる、自分で作る、自分のためのガイド。もとはアメリカで精神的な辛さを経験している人たちによって考案された。]

今回、山形県立保健医療大学の“のびぞー” (安^{あん}保^ぼ寛^{ひろ}明^{あき}氏) の呼びかけのもと、沖縄でWRAPファシリテーターの資格を持つ数名がクラス運営に携^{たずさ}わることになって、ぼくもその隅っこに加えてもらった。

いつも思うことに、日頃の役割や立場を外して、たんに“私”としてそこにいられる感覚は、どうもWRAPクラス以外ではなかなか得ることが難しい。

ぼくたちについてまわるさまざまな社会的属性は、ぼくたちを閉じ込めてかたちを固定させる、粘土^{かたわく}の型枠のようだ。ときどきその型枠をすっかり取り外して、ぐにゃぐにゃの、かたちの定まらない、融通の利く存在に戻ってみると、そのほうがどれだけ過ごしやすく、息がしやすいかを思い出すことができる。WRAPのクラスが生じさせるのは、そういう時間でもあるようだ。

ぐにゃぐにゃの存在同士で、お互いのそのままをぼんやりと眺め、感じる。

そしてクラスが終わったあとには、またそれぞれ自分の粘土の型枠へと、多少の^{なごりお}名残惜しさとともに戻っていくのである。



戻らない、という選択肢もある。あるけれど、型枠は自分を守ってくれる面もあるから、外に出っぱなしのまままで日常に戻ると、簡単に八つ裂きにされてしまうような不安も感じる。まあ、それでもいいと言えればいいような気もしてくるのだけれど。

沖縄のファシリ仲間とWRAPクラスを行なうのは、コロナ禍もあってずいぶん久しぶりだった。でも始まってみればほとんど時間の隔たりも感じさせず、じんわりした馴染みの感覚が、縁側の鈴虫みたいに心地よかった。

一方で、のびぞーが言うように、毎回のクラスは一期一会で、同じことがない。ファシリテーターの組み合わせや、ひとりひとりの参加者によっても色合いが違ってくる。その一回性がWRAPクラスの味わいでもあり、だからなおのこと名残惜しさが募る。このしみじみとした感慨は旅の終わりにも似ているようで、クラスを解散してそれぞれが家路にあることを想像する、ひとりひとりの静かな時間が好きだ。



『WRAP の工具箱』(wrap-jp.net) もどうぞよろしく 😊

◎編集後記◎

季節の切り変わる、この端境の時間も好きだ。沖縄は夏が長い分、暑すぎず寒すぎない、この秋の季節はいつも特別に感じる。

端境期とは、限定的な意味を取れば、市場で古米が新米に切り替わる時期を指すらしいが、秋の味覚はどれもこれも格別で、スーパーの食品売り場を散歩するだけで、にわかにテンションが上がってくる。

内地の実家にいた頃は、茹で栗が好きで毎年食べた思い出がある。日向で十分に干した栗を、大鍋でぐつぐつ茹でて半分に切って、スプーンですくって食べる。甘いのもそうでないのも混ざっていて、甘いのに当たるとこれまたほんのりテンションが上がる。(増山)

編集：公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会
会長 山田 圭吾
〒901-1104
沖縄県島尻郡南風原町字宮平206-1
てるしのワークセンター内
電話098-889-4011 FAX098-888-5655
E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp
発行：九州障害者定期刊行物協会
〒812-0068
福岡市東区社領1丁目12番4号
電話092-753-9722 FAX092-753-9723
定価：10円(会費に含まれる)